

宮内彩の New Zealand Style no.14

Caroline Church

「Caroline Church」というブランド名は、2004年10月に行われたニュージーランドファッションウィークで初めて目にするものだった。が、キャロラインは第一回目のファッションウィークから参加している、ベテランデザイナーだ。昨年までは、State of Graceのブランド名で、シェリリン・キャッチボールと共にデザインをして来た。今回は、独立後初めてのコレクション。「13年間State of Graceをやって来て、2年くらい前から、自分自身でやりたいと思い始めていました」

という彼女。今回は遂に自分自身のブランドとして、コレクション発表を果たした。そんなキャロラインのインタビューに私が出かけたのは2月のある日。「今週はとても忙しいの。でも、時間を作るわ」と言ってくれた彼女。

聞けば、2日前にお店をオープンしたばかりだと言う。これまで「State of Grace」だった店を「Caroline Church」としてリニューアルしたのだ。その上、「先週までこの辺りに住んでいたんだけど、ムリワイの海辺に引っ越したところなの。それに、来週結婚するの。ウェディングドレスはもちろん自分で作るんだけど、まだ作り始めているの！」お相手は長年つきあっているアイルランド人のパートナー。「結婚式でもしなければ、彼の家族が全員が

ニュージーランドに来る機会もあまりないから」と笑う。

全てが新しいスタートの今。ワークルームには10人のスタッフが働き、愛犬のストロズマーフィーも毎日一緒に通勤する。超多忙にもかかわらず、なんとなくのんびりとした空気がアトリエ内を流れている。「やることが山ほどあるの！」と言いながら、「まあ、なんとかなるでしょう」と開き直って、笑い飛ばしていた。

結婚式や特別なオケーションのための華やかな服に定評のあるキャロライン。

ステートオブグレースよりも、彼女自身のブランドの方が、少し大人っぽい。が、「今後コレクションを充実させて行く上で、もう少し若くてセクシーなラインも作って行こうと思っています」とビジネスにも意欲的だ。

裁縫の先生を母に持つキャロラインは、母親が使った布の切れ端を宝物のように大切にし、遊んでいた。幼い頃から自分の服を作ることにも覚えた。そのため、デザインも机に向かってスケッチをするよりも、布を触りながら立体裁断していくことが多い。自らパターンを引くことも少なくない。「机に座ってデザインするよりも、作っちゃう方が私にとっては簡単なの」と言う。生まれはイギリスだが、幼い頃からニュージーランドに移り住み、今

Dinner

ニットのドレスはストレッチなので着心地もばっちり。

ワンピース \$560

Town

折り紙のようなひだのブラウスとスカートでファッション感覚の鋭さをアピール。

ブラウス \$275
スカート \$340

Town

秋になったら、艶やかなコートで気持ちも華やかに。

コート \$1100
パンツ \$350

Work

シンプルな黒いスーツはブラウスの袖口を覗かせてゴージャスに。

ジャケット \$620
スカート \$380
ブラウス \$265

Work

仕事場でも、アクセントのあるニットと刺繍のスカートでゴージャスに。

ニット \$620
スカート \$630

Evening

ロングスカートも、上をニットにしてリラックスした感覚で。

セーター \$275
スカート \$710
ブローチ \$25

Cocktail

ワンショルダーのフェミニンなドレスで大人の女性を装って。

ドレス \$940

Party

清楚な白で妖精のように可憐に。

ブラウス \$470
スカート \$480
ワンピース \$560



では自分を「ニュージーランド人」と迷わずに言う。でも、作品自体が特に「ニュージーランド的」だとは思わない。彼女の服を一つの枠にはめる事はできない。

「インスピレーションはあらゆる所から受けます。海外旅行中にギャラリーを覗いたり、古い歴史の中の衣装や、過去の時代の美しい女性達などに刺激を受けます。いつも素材を先にデザインするので、布が出来上がる」とそれぞれが『コートに仕立てて』とか『ドレスに仕立てて』とうったえるんです。」今はちょうど来年の冬の素材をデザインしている最中だという。

新ブランドのデビューコレクションは「Eccentric Englishwoman」と題され、エディス・シトウェルというエキセントリックな英国人の詩人よりインスピレーションを受けている。「一般的な美しさではなかったけれど、彼女はとてもユニークな美を持つ女性で、他人に

変だと思われても構わない強さを持っていました。」

そんな彼女の服の特徴は贅沢感があり、エレガント。奇抜さはなく、トレンドに左右されない美意識を持っている。「自分が美しいと思うもの、着たいと思うものをデザインします」と語る。「私の洋服を着る女性には、『自分が世界で一番美しい』と感じてもらいたいです。」顧客も若い女の子からシルバー層までと幅広い。

パーティ用の着飾ったドレス類が知られているが、ニット、スーツやコートなど、日常的な装いも充実している。

「ファッションウィークで一番楽しいのはジャンパン！」と笑う彼女。「ショーをしたり、フィナーレでステージを歩いたりするのは大好き。他の人のショーをのぞいて見るのも楽しいわ。」美しい物を創り、人生を楽しんでいるキャロライン。新しいブランドでますます華麗に羽ばたいていくことだろう。



宮内彩 東京生まれ。西町インターナショナルスクールを経て、スイス、ル・ロゼ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクションを取材。雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オークランド在住の中村嗣氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をN.Z.に移転。01年、長男・孝入君。02年、次男・大入君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動が続いている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス」「おしゃれのエッセンス旅コレクション」(母・大内順子と共著)等。NZでの生活のエッセイが載っているホームページはwww.ouchi-junko.com